

## 比較養護教育論

—養護教諭とアメリカのスクールナースの保健医療的視点からの検討—

岡田加奈子\*

### Comparison of education between school nurse teachers in Japan and school nurses in America

Kanako Okada, R.N.,Ph.D.

#### Abstract

The purpose of this study was to compare the role, position and education of school nurses in America and school nurse teachers in Japan from the point of health behavioral science.

School nurses in America are nurses in school settings and use a lot of nursing methods and ideas. Many standards and manuals are published for school nurses in America. On the other hand, school nurse teachers in Japan are teachers. Therefore, they practice as teachers.

Education for becoming a school nurse is the same for becoming nurses. Some states have special courses at University or Colleges for School Nurses after they get nursing licenses.

Education for becoming school nurse teachers was the same system as for becoming nurses in the past. But we have original courses for becoming school nurse teachers in Japan now.

---

\*千葉大学教育学部

## キーワード

スクールナース school nurse

養護教諭 school nurse teacher

教育 education

役割 role

基準 standard

## I はじめに

保健医療従事者として位置づけられるアメリカのスクールナースと、教育者としての位置づけである日本の養護教諭は、様々な点で相違点が存在する。そこで本論では両者の免許状・身分、役割、そして役割を果たすための養成教育を保健医療的視点を中心に比較、分析することを目的とする。

## II 養護教諭とスクールナースの免許状および身分

必要な免許状は日本の養護教諭の場合は養護教諭免許で、種類は養護教諭専修免許、一種免許、二種免許の3種類である。一方、スクールナースの場合は州によって異なるが、アメリカ全体で共通しているのが看護婦免許である（藤田1995）。そして、病院や地域で働く看護婦の免許と同一で、基本的な種類の差はない。

ただし、日本にはみられない School Nurse Practitioner という資格制度が存在する。簡単な疾病に限って、診断・処方といったことができる資格である（Mezey1993）が、これは診療機能をもつ School-based clinic や Youth service center, Community based clinic とともに、アメリカの医療を十分に受けられない貧困層の問題や医療保険制度の背景（西村1995）から生じた制度といえる（Lovick1991, Igoe1994, 藤田1996）。

両者の身分も大きく異なる。養護教諭は学校教育法第28条に定められた、教育者としての位置づけであるが、アメリカのスクールナースは州や地域によって Public Health Nurse, Community Health Nurse, School Nurse Teacher, Certified School Nurse 等の呼称が用いられ、一般に看護婦としての身分である。しかし、ニューヨークのように身分は看護婦だが、教育者としての位置づけをしているところもある（藤田1995）。

### III 養護教諭とスクールナースに至るまでの歴史

諸外国においてのスクールナーシングの原点は、訪問看護といえるであろう。訪問看護は看護の一方法として古くから行われてはいたが、本格的訪問看護がアメリカにおいて始まったのは1886年「フィラデルフィア訪問看護婦会」とボストンの「地区看護協会」であった。その背景には、スラム街の環境衛生、伝染性疾患等の問題が存在したという。その後、訪問看護を含む地域の看護は公衆衛生看護 (Public Health Nursing) として位置づけられ、1893年ニューヨーク市の「ヘンリー街セツルメント」から活動が始まったとされている（看護史研究会1997）。

そのようななかでスクールナーシングは、貧困層の子どもの不健康な状態を背景に1890年代にイギリスにおいて開始され、1897年にロンドンスクールナースソサエティーが設立された。子どもの目の痛み、しもやけ等の軽い病気の治療と家庭訪問による親への教育を行っていた。アメリカにおいては1902年に始まり、1912年に National Organization for Public Health Nursing (アメリカ公衆衛生看護協会) の一部門として正式に位置づけられた (Woodfill 1991)。

一方、日本においての本格的訪問看護および公衆衛生看護活動は、庶民の貧困と疾病および乳幼児死亡率の増大等の背景により、アメリカより40年ほど後の1920年代（大正時代末）から昭和にかけて開始され、1930年には公衆衛生訪問婦協会が設立された（看護史研究会1989）。

また学校における看護活動は、古くは学童トラコーマ対策の必要性から1905年（明治38年）に岐阜県で学校看護婦が採用され始め、文部省は本格的公衆衛生活動が開始されるのとはほぼ同時期の1922年（大正11年）に正式に学校看護婦という用語を使い始めた。そして、1929年（昭和4年）の「学校看護婦に関する件」の訓令で制度化されたのである。

このように、始まりは諸外国のスクールナースと同様、看護をバックグラウンドとするものであったが、この後、日本独自の発展を歩むことになる。保健医療従事者、つまり看護婦としての位置づけであった学校看護婦時代とは大きく変わり、教育者としての位置づけとなったのが1941年（昭和16年）の養護訓導の時代である。そしてさらに1947年（昭和22年）に養護教諭という名称に変更された（杉浦1974, 看護史研究会1989）。それではなぜ、養護訓導が教育者としての位置づけになったのであろうか。その理由はいくつか考えられるが、杉浦（1974）によると、1つは当時の学校制度の全面的改革を意図して設けられた教育審議会の答申で「児童の養護」を重要視し、養護は教授、訓練と不可分のもので教科そのものではないが、教科の延長として扱われることとなったこと。2つめは、学校身体検査や衛生訓練等の学校行事等も教科と一体となって運営されることが強調され、教科外活動として時間も正式に割り当てられたこと、つまり養護の分野が教育の内容として包括されたことから、保健養護の行事に従事し訓練指導にあたる職員を教員として処遇することは当然のことと考えられるようになったこと。さらに、青少年の虚弱傾向を救済し健兵を得るには、学校内にこのような専門職員が必要であるとの軍部の積極的支援があったことなどが大きく作用したと指摘されている。

このような養護教諭に至るまでの道のりのなかで、看護婦免許が必要とされたのは学校看護婦時代と、1949年（昭和24年）から数年間の養護教諭の時代である。戦後の昭和の制度は、アメリカ型スクールナースを念頭においたアメリカ軍政府当局（GHQ）の強い要請により、看護婦免許を必要とはしたが、看護婦養成数自体が不足していたという背景があり、現実的には困難であったという（飯田1988, 杉浦1974, 養護教諭制度50周年記念誌編集委員会1991）。そ

して1953年(昭和28年)7月教育職員免許法が改正されたが、前年の4月の講和条約の発効を機に、占領政策を是正する意図もあって大幅な改正となり、養護教諭の養成も看護婦免許とは無関係の養護教諭養成コースが新設されたのである(杉浦1974)。

#### IV 養成教育の歴史

養成教育に関しては、1890年代にイギリスでスクールナーシングの教育プログラムが作られ、翌91年には教育を受けたスクールナースが派遣されているのが最初といわれている(看護史研究会1997)。

一方、アメリカにおける近代看護教育は、1839年にフィラデルフィア看護協会が3年制の看護学校を開設し(高野1991)、その後1916年に学士号をもつ課程が開始された(看護史研究会1997)。さらに1924年のコロンビア大学、ティーチャーズカレッジを皮切りに博士課程の看護教育課程が急増している状態である。

そのような看護教育のなかで、スクールナースに関して特筆すべき出来事といえば、1970年に School Nurse Practitioner の養成プログラムがコロラド大学で始められたことであろう(University of Colorado Health Sciences Center1987)。

一方、日本の近代的看護婦養成教育は、1864年(明治17年)に現在の東京慈恵会医科大学附属病院の前身である有志共立東京病院看護婦研究所において開始された(杉森1993)。

そして、専門学校レベルすなわち高等女学校卒業を入学資格とする最初の看護婦教育は1920年に始められ(看護史研究会1989)、アメリカに三十数年遅れた1952年(昭和27年)に高知県立女子大学家政学部看護学科が4年制の大学教育を、1967年(昭和42年)に大阪大学の医療技術短期大学部看護科が国立系の短大として初めて看護教育を開始した(亀山1991)。そして、近年、看護大学・大学院修士および博士課程の新設が急速に進んでいる(飯田1995)。

一方、看護婦ではなく訓導(教諭)の身分となった養護訓導時代には、看護

教育とは異なった養成教育がみられるようになる。高等女学校の卒業者またはこれと同等の学力を有する者に対して2年以上、または看護婦免許を所持している者は1年以上の養成の方法が指定され、その後、養護教諭に関しては1947年の初期のころは仮免許交付などの方法が存在した。1949年に教職員免許法が制定され教員養成は大学で行うという原則ではあったが、養護教諭だけは看護婦・保健婦養成に全面的に依存していた養成形態であった。これは、アメリカ合衆国政府が日本にアメリカ教育使節団を派遣し、その報告を受けた連合国軍総司令部（GHQ）およびその内部機構である民間情報教育局（CIE）が極端に介入した結果であった。その方針は、保健の教授、学校検診等の重要性は強調する（村井実1979、鈴木英一1991、安達拓二1993）といった一面があったものの、その一方で日本の養護教諭の独自性を認めなかったため、と杉浦（1974）は指摘している。

しかし、1953年（昭和28年）の免許法の改正により養護教諭独自の養成コースが新設された（杉浦1974）。1965～1969年（昭和40～44年）の間に3年課程の国立養護教諭養成所が新設、その後1975～78年（昭和45～48年）にそれらが国立大学教育学部養護教諭養成課程に切り換えられた（堀内1991）。

養成教育の形態も養護訓導、養護教諭といった教育者としての身分に見合うように、他の一般教諭の養成から遅れをとったが、教育者としての独自の養成に重点がおかれていったといえる。

## V 養護教諭とスクールナースの役割

保健医療従事者（看護婦）としての位置づけのアメリカの School Nurse と、教育者としての位置づけである日本の養護教諭はその役割においても違いがあると考えられる。そこで、本論では役割を比較する一手段として、いわゆる「Standards」といわれるものと、さらに現場の実践の指針である「マニュアル（手引き）」と呼ばれるものについて日米間で比較した。

スクールナースの Standards やガイドラインに関連するものには、National

Association of School Nurses (アメリカスクールナース協会, 以下 NASN) が出版している Guidelines for School Nursing documentation : Standards, issues, and models(1991)や The School Nurse's Role in Delegation of Care : Guidelines and Compendium (Luckenbill 1996), Overview of School Health Services(1997)があり, さらに特定の分野に限局したもの, たとえば姿勢に関する Postural Screening Guidelines for School Nurses (Lever1995), 評価に関する Job Performance Evaluation Guidelines for School Nurses (Ackerman1995) など様々なものが存在する。

そのなかで, ここでは比較的新しい全米的な Standards として, NASN より出版されている School Nursing Practice Roles and Standard(Proctor 1993)を取り上げた。これは, American Nurses' Association(1991)の Standards of Clinical Nursing Practice をスクールナースングに適応したものであるが, 6つの役割概念および10のカテゴリーに分類されている(表1)。

もう1つ全米的なものといえば American School Health Association (アメリカ学校保健学会, 以下 ASHA) のスクールナース研究委員会から1991年に出された Implementation guide for the standards of school nursing practice (1991a)であろう。これは, American Nurses' Association の提案している Standards of School Nursing Practice(1983)と類似項目で提案されているが, その概要はすでに日本教育大学協会全国養護部門(1997)から翻訳され報告されている。

また, 日本においては, 古くは1964年日本学校保健会養護教諭部会が11項目からなる職務内容を提案し(小倉1990), その後文部省が, 保健体育審議会の1972年12月の答申の趣旨に基づいて, 主催する研修会で養護教諭に対する指針を示している(日本学校保健会1996)。さらに小倉(1990)は専門性の立場からこれらの問題点を指摘し, 養護の内容についての試案を提示している。しかし, すでに時代を経ているため, 本論では日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班(1990)によって示された Standards とも考えられる望ましい養護教諭像を取り上げた。ここでは詳述できないため, キーワードのみを表に

表1 School Nursing Practice—Roles and Standard—(1993)  
—アメリカスクールナース協会 (NASN) —

---

役割概念1 = クライアントケアの提供者

① 臨床上の知識

スクールナースは看護実践のなかで臨床上の正確な知識を用いて意思決定を行う。

② 看護過程

スクールナースは看護実践のなかで問題解決を行う際にシステマティックなアプローチを用いる。

③ 特別なヘルスニードをもつクライアント

スクールナースは特別な健康ニードをもつクライアントをアセスメントし、適切な看護ケアを計画、提供し、そしてケアの結果を評価することによって彼らの教育に貢献する。

役割概念2 = コミュニケーター

④ コミュニケーション

スクールナースは書くこと、言葉や言葉を用いないノンバーバルなコミュニケーションスキルを用いることを効果的に行う。

役割概念3 = クライアントケアの計画者およびコーディネーター

⑤ プログラムマネジメント (活動の管理運営)

スクールナースは包括的學校健康プログラムを作成、継続させる。

⑥ スクールシステムのなかでの協力体制

スクールナースは、クライアントの健康上の、発育発達上の、そして教育上のニードを満たすために、他の學校の専門家、両親、ケアの提供者と協力する。

⑦ 地域健康システムとの協力体制

スクールナースは、ヘルスサービスやソーシャルサービス等の地域のメンバーと協力し、地域健康システムや資源の知識を有効活用し、連絡者としての機能を果たす。

役割概念4 = クライアント教師

⑧ 健康教育

スクールナースは、学生、家族、スクールコミュニティが望ましいウエルネスのレベルを達成するために、適切に計画された健康教育を通じてサポートする。

役割概念5 = 研究

⑨ 調査研究

スクールナースは、調査研究や調査研究に関連した活動を行ったり参加したりするなかで、みずからが向上し、看護や學校保健に貢献する。

役割概念6 = 看護の鍛練のなかでの役割

⑩ 専門性の向上

スクールナースは看護の役割を確認し、定義し、明確にすること、ケアの質を促進すること、専門性を継続して向上させること、そして専門家として何を生み出したのかを示すことを行う。

---



示した。これら日米の Standards を比較したのが表 2 である。

さらに、実際のマニュアル(手引き)としては、NASN から Standards に沿って開発された School Nursing Practice(Zaiger1994)と、同じく NASN から出された手順、モデル、ガイドラインが示されている Quality Nursing interventions in the School Setting (学校現場における質的看護治療) (Hootman1996a)を、さらに日本の手引きとして「新版養護教諭の執務の手引き」(植田1997)を取り上げ、それらの章立てを NASN の役割概念にあてはめて比較したのが表 3 である。

表 2・表 3 によると、役割概念 1 = クライアントケアの提供者では、アメリカの Standards では看護過程という用語が用いられ、それにはデータの収集・看護診断・計画・看護治療・評価が含まれている(日本教育大学協会全国養護部門研究委員会1997)。つまり看護過程に含まれているものは、日本においても健康問題の早期発見・判断・健康観察・健康診断・救急看護等といった用語で示されているといえよう。

そのなかで、保健医療従事者としてのスクールナースにとって落としてはならないのは、様々な論争を展開している看護診断であろう。看護診断は、1970年代に発達し、現在では the North American Nursing Diagnosis Association(NANDA)がその中心となっている(1996)。日本においても近年臨床場面での適応が試みられているが言語を含めた様々な問題が存在しているのが現状である(日本看護協会出版会1996)。アメリカでは学校の場に適応させようという試みもされており、NASN より Nursing Diagnosis: Application in the school setting (Hootman1996b)が発行されている。一方、日本においても養護診断(杉浦1990)という用語があるが、NANDA の看護診断とは異なった概念で、問題点を正しく把握するアセスメントに近い使われ方であろう。

また、アメリカのマニュアルには治療といった用語がみられる反面、日本のマニュアルにみられる救急処置や救急看護の記述がみられないのは、一つにはそれらが治療に含まれること、もう一つには Health Assistant がその役割を担っているという背景があるであろう。Health Assistant は、1校に1名以上

表2 スクールナーシングと

	School Nursing Practice Roles and Standard
	アメリカスクールナース協会 NASN (1993)
役割概念1=クライアントケアの提供者	1 臨床上の知識 2 看護過程 3 特別なヘルスニードをもつクライアント
役割概念2=コミュニケーター	4 コミュニケーション
役割概念3=クライアントケアの計画者 およびコーディネーター	5 プログラムマネジメント(活動の管理運営) 6 スクールシステムのなかでの協力体制 7 地域健康システムと協力体制
役割概念4=クライアント教師	8 健康教育
役割概念5=研究	9 調査研究
役割概念6=看護の鍛練のなかでの役割	10 専門性の向上

の常勤である日本の養護教諭制度にはあまりみられないが、アメリカにおいては Health Room (Health Office) において、救急処置などスクールナースの Assistant 的役割を担っている。しかし、これらには短期間の講習が必要な以外、多くの場合、特に免許状は必要とされていない(American School Health Association1991b)。

また、特別なヘルスニーズをもつクライアントケアに関しても実際には大きな相違がある。アメリカでは1975年に障害をもった生徒も格差なく通常の学校に通えるようにすべきことを法律で規定して以来、こうした子どもの専門的ケアがスクールナースのかなり重要な仕事となっている(藤田1995)。日本においては現在のところアメリカのスクールナースのような役割は期待されていないが、近年養護学校等において、専門的ケアに対するニーズが高まっており、その是非と程度について議論が行われているが、今後はこれらの領域における教諭と養護教諭の専門的ケアのニーズは高まると考えられる。

役割概念2=コミュニケーターのコミュニケーションについては、NASN の

## 養護活動の Standards の比較

Implementation guide for the standards of school nursing practice	望ましい養護教諭像
アメリカ学校保健学会 ASHA (1991)	日本学校保健学会 (1990)
③看護過程	3. 子どもの健康問題の早期発見, 構造的に判断 3. 健康問題をもつ子どもに対し, 問題解決の援助と人格の成長を目標とした支援
②プログラムマネジメント (活動の管理運営) ⑦地域保健との連携 ④学際的な協力体制	4. 組織的な取り組み
⑤健康教育	2. 生きていく力を子どもに培う
⑧調査研究 ①理論	5. 研究
⑥専門性の向上	1. みずからの役割を迫及する姿勢 5. 絶えず学ぶ態度 6. 温かい人間性や幅広い教養, 専門業としての責任感

Standard 以外みられないが, 役割概念にあげられていることは注目すべきことであろう。役割概念3＝クライアントケアの計画者およびコーディネーターでは, 学校内での協力体制が重要であること, さらに地域との連携を図らなくてはならないことが多くの Standards に示されていることから明らかである。しかし, マニュアル (手引き) のレベルになると助手との協力 (アメリカ) や学校保健組織活動 (日本) といった以外明記されていない。これに関しては, 実際の観察とインタビューから藤田(1995)は, 養護教諭が「親や他の教師たちと共同して, 子どもの問題解決あるいは自立に向けてその子を援助する」という実践の構図が感じられる一方で, スクールナースの場合は「子どもの問題解決のためにその子と親, そして教師に対して必要なアドバイスや援助をする」というヘルスサービスの対象を子どもたちだけでなく教師や親も含めている印象を受けると, 両者の差異を言及している。

役割概念4＝クライアント教師では, 健康教育関連の用語が多くの Standards や手引きにみられる。アメリカでは「ウェルネスのレベルの向上」やウエ

表3 スクールナースングと養護活動のマニュアル(手引き)の比較

	Quality Nursing Intervention	School Nursing Practice	新執務の手引き
	アメリカスクールナース協会(1996)	アメリカスクールナース協会(1994)	東山書房(1997)
役割概念1=クライアントケアの提供者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護診断</li> <li>2. 健康問題</li> <li>3. 専門家としてのプロトコール</li> <li>5. 治療</li> <li>6. 継続治療</li> <li>7. 身体的アセスメント</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. スクリーニングプログラム</li> <li>10. 早期治療</li> <li>3. 治療上の問題</li> <li>4. 予防接種</li> <li>5. 伝染病疾患と感染予防</li> <li>7. 病気とけが</li> <li>8. 幼児虐待保護</li> <li>9. 特別なヘルスニーズと教育</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 健康観察</li> <li>5. 健康診断</li> <li>10. 救急看護</li> <li>6. 健康相談</li> <li>7. 精神保健</li> <li>14. 伝染病と食中毒の予防</li> </ol>
役割概念2=コミュニケーター			
役割概念3=クライアントケアの計画者およびコーディネーター	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 学校保健管理計画</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 学校保健プログラム</li> <li>12. 助手との協力</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 学校保健安全計画</li> <li>3. 学校保健組織活動</li> <li>8. 学校環境衛生</li> <li>9. 学校安全</li> </ol>
役割概念4=クライアント教師		<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 健康教育とウェルネスプロモーション</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 保健教育</li> </ol>
役割概念5=研究			
役割概念6=看護の鍛錬のなかでの役割		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門家としての問題</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>15. 研修(生涯学習)に向けて</li> </ol>
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 定義, 9. 手順</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護教諭の職務と執務</li> <li>12. 保健室経営</li> <li>13. 保健室におけるコンピュータ利用</li> </ol>

ルネスプロモーションといった、ウェルネスの用語が使われている。「病気や障害などあらゆる健康段階における人間の可能性の個別的実現を目的とした行動

として概念化されたもの」がウェルネス行動とされ(宗像1990),ヘルスよりもより積極的な意味をもつ健康観としてアメリカにおいて1981年ころから提唱し始められ,注目されている用語である(三浦1995).十代妊娠の多さや麻薬や飲酒の問題等,その解決に対する教育への期待が大きいことから(黒沢1991),保健医療従事者としてのアメリカのスクールナースにとっても,健康教育が重要な役割であることがマニュアルを見ても理解できる.しかし,その関与の仕方は多くの場合,教師たちへの資料提供が主な役割であり,一部を除けば実践を行うことは少ないのである(藤田1995).一方,日本の養護教諭は,保健の授業実践という役割に代表されるように,実際の健康教育の中心人物といえよう.また,望ましい養護教諭像で,教育の根本ともいえる「生きていく力を子どもに培う」や「健康問題をもつ子どもに対しては,問題解決の援助と人格の成長を目標とした支援」という,教育者としての養護教諭のあり方を示す記述がみられるのが特徴である.また,マニュアルでは,学校における健康教育の特有の用語である保健教育が用いられている.

役割概念5の研究は,Standardsにはみられるが,具体的な手引きになるとその記述は日米共にみられない.役割概念5の研究と役割概念6の専門家としての鍛練の役割は専門家として必要欠くべからざるものであるが,研究という項目がマニュアルにはみられないその理由の1つとして,これらマニュアルが経験を重ねた者に対してではなく,新人を想定して作られたものであることが考えられる.

以上のようにアメリカのスクールナースは保健医療従事者としての身分であり,健康,保健関連で話題になったウェルネス,プロモーションなどの概念や,看護界全体の流れを組む看護診断や看護治療等の概念がStandardsやマニュアルに反映されている.

一方,日本の養護教諭は,身分は教育者としての位置づけであり,その役割は保健関連職種としてのものが期待されているとはいえ,その基本は教育者としての役割の上に立つものであることが,「生きていく力を子どもに培う」等の記述,健康教育関連の役割の拡大からうかがえる.

## VI 養護教諭とスクールナースの養成教育

スクールナースの養成は、他の看護職の養成コースと同様で、資格証明制度をもつ州では、看護婦免許取得後の者を対象とした養成プログラムが州内の大学に存在する（藤田1995）。

一方、日本の養護教諭一種免許状取得のための養成教育は、大きく分けて教育学系、看護学系+教育学系、看護学系、およびその他(体育学系や栄養学系)に大別できるであろう(岡田1998)。看護学系+教育学系のなかの、いわゆる看護婦免許取得後に進む教育学部特別科等の形が、アメリカの資格証明制度をもつ州の養成に近いといえよう。

藤田(1995)の調査では、受けた養成教育はスクールナースの70%は大学以上で、15%が修士号を所持している。一方、日本では4年制大学以上の出身者は10%に満たない。しかし、今後、日本においても4年制大学出身者が増加し、さらに養護教育専攻の大学院の新設が進んでいることから、修士学位以上の者も増えてくることが予想される。また、看護系大学等の養護教諭免許状の取得可能校も増加していることから、看護学系出身者の養護教諭も増えていくことであろう。

以上のように、保健医療従事者としての位置づけのアメリカのスクールナースとその一面をもちながらも教育者としての位置づけである日本の養護教諭は、役割、そしてその養成教育の点で様々な相違点がみられた。しかしながら、看護的ケアのニーズは日本でも非常に高く、教育者の位置づけとはいえ、それらに関する専門家としての対応が求められているのはStandardsやマニュアルからも明らかであった。

### 引用・参考文献

- 1) Ackerman, Patricia McFarland (1995): Job Performance Evaluation Guidelines for School Nurses, National Association of School Nurses, Scarborough.

ough, Maine.

- 2) American Nurses' Association.(1983) : Standards of School Nursing Practice, American Nurses' Association, Kearneysville, WV : American Nurses' Publishing.
- 3) American Nurses' Association.(1991) : Standards of Clinical Nursing Practice, Kearneysville, WV : American Nurses' Publishing.
- 4) American School Health Association(1991a) : Implementation guide for the standards of school nursing practice, American School Health Association, Kent, OH.
- 5) American School Health Association(1991b) : School Health Assistants in the Health Office, Implementation guide for the standards of school nursing practice, 74, American School Health Association, Kent, OH.
- 6) Hootman, Janis (1996a) : Quality Nursing interventions in the School Setting : Procedures, Models, and Guidelines, National Association of School Nurse, Scarborough, Maine.
- 7) Hootman, Janis & Juall,Carpenito Lynda(1996b) : Nursing Diagnosis : Application in the school setting, National Association of School Nurse, Scarborough, Maine.
- 8) Igoe, B. Judith (1994) : School Nursing, Community Health Nursing and Home Health Nursing, 29(3) : 443-458.
- 9) Lever,Carol Sue (1995) : Postural Screening Guidelines for School Nurses, National Association of School Nurses, Scarborough, Maine.
- 10) Luckenbill, H. Doris (1996) : The School Nurse's Role in Delegation of Care : Guidelines and Compendium, National Association of School Nurses, Scarborough, Maine.
- 11) Lovick, R. Sharon (1991) : School-Based Clinics : Meeting Teens' Health Care Needs, Implementation guide for the standards of school nursing practice, 45-46, American School Health Association, Kent, OH.
- 12) Mezey, D.Mathy & McGivern, O.Diane (1993) : Nurse, Nurse Practitioner, Springer Publishing company, New York.
- 13) National Association of School Nurses (1991) : Guidelines for School Nursing documentation : Standards, issues, and models, National Association of School Nurses, Scarborough, Maine.

- 14) National Association of School Nurses (1997) : National Overview of School Health Services, National Association of School Nurses, Scarborough, Maine.
- 15) North American Nursing Diagnosis Association (1996) : Nursing Diagnosis : Definiton & Classification, Philadelphia.
- 16) Proctor, Susan Tonskemperr, Lordi,L.Susan & Zaiger, Donna Shipley (1993) : The School Nursing Practice Roles and Standards, National Association of School Nurses, Scarborough, Maine.
- 17) University of Colorado Health Sciences Center (1987) : School Nurse Practitioner Program Curriculum Handbook, Colorado.
- 18) Woodfill, M.Marlene & Beyrer, K.Mary (1991) : The Role of the Nurse in the School Setting : A Historical Perspective, American School Health Association, Kent, OH.
- 19) Zaiger,Donna Shiply (1994) : School Nursing Practice an orientation manual, National Association of School Nurses, Scarborough, Maine.
- 20) 安達拓二(1993) : 占領下の教育, 現代学校教育大辞典, 4 ぎょうせい, p. 508-510.
- 21) 飯田澄美子(1988) : 第 1 章 養護教諭の歴史, 養護活動の基礎, 家政教育社, p. 11-20.
- 22) 飯田澄美子(1995) : 看護大学の増設, 保健の科学, 37 : 463-465.
- 23) 植田誠二(1997) : 新版・養護教諭執務の手引き, 東山書房.
- 24) 岡田加奈子(1998) : 養護教育・養護と看護ー養護教諭に関連してー, 千葉大学教育学部紀要, 46, I : 教育科学編, p. 181-192.
- 25) 小倉学(1990) : 改訂 養護教諭ーその専門性と機能ー, 東山書房.
- 26) 亀山美知子(1991) : 日本における看護教育の歴史, <看護 MOOK37看護教育>, 金原出版, p. 11-19.
- 27) 看護史研究会(1989) : 日本看護史, 医学書院.
- 28) 看護史研究会(1997) : 世界看護史, 医学書院.
- 29) 黒沢香(1991) : アメリカ合衆国の教育, 国際教育辞典, アルク, p. 14-17.
- 30) 杉浦守邦(1974) : 養護教員の歴史, 東山書房.
- 31) 杉浦守邦(1990) : 養護教諭のための診断学 (内科編), 東山書房.
- 32) 杉森みど里(1993) : 看護と看護教育の歴史的検討, 教育と医学, 41(3) : 210-216.



- 33) 鈴木英一(1991)：アメリカ教育使節団，国際教育辞典，アルク，p. 17-18.
  - 34) 高野順子(1991)：米国における看護教育の動向，〈看護 MOOK37看護教育〉，金原出版，p. 34-41.
  - 35) 西村由美子(1995)：アメリカ医療の悩み，サイマル出版会.
  - 36) 日本学校保健会(1996)：保健主事の手引，ぎょうせい.
  - 37) 日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班(1990)：これからの養護教諭の教育，東山書房.
  - 38) 日本看護協会出版会(1996)：看護診断論争，インターナショナルナーシングレビュー，19(3).
  - 39) 日本教育大学協会全国養護部門研究委員会(1997)：21世紀における養護教諭養成教育のあり方に関する報告書.
  - 40) 藤田和也(1995)：アメリカの学校保健とスクールナース，大修館書店.
  - 41) 藤田和也(1996)：スクールベースドクリニック，学校保健のひろば，2，126-127，大修館書店.
  - 42) 養護教諭制度50周年記念誌編集委員会(1991)：養護教諭制度50周年記念誌，ぎょうせい.
  - 43) 堀内久美子(1991)：第1節 養護教諭養成制度の変遷の概要，養護教諭制度50周年記念誌，ぎょうせい，p. 250-262.
  - 44) 三浦正行(1995)：「地球の時代」の健康を考える，文理閣.
  - 45) 宗像恒次(1990)：新版行動科学からみた健康と病気，メヂカルフレンド社.
  - 46) 村井実(1979)：アメリカ教育使節団報告書，講談社学術文庫.
-